

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市子育てふれあいプラザ泉中央		
2 指定管理者	一般社団法人 マザー・ウイング		
3 指定期間	令和4年4月1日～令和9年3月31日		
4 施設の利用状況	《利用者数》 令和6年度 61,296人(前年度比 106.0%) 内訳 ひろば:41,354人 託児:1,830人 中高生:15,519人 子育て支援者:885人 ホール:1,708人(46件) ※視察等:703人 令和5年度 57,851人 令和4年度 32,612人		
	《事業》 乳幼児親子の交流の場の提供、一時預かり、子育てに関する情報収集・提供等、子育てを総合的に支援する事業 子育てに関する事業を行う者(子育て支援活動団体)に関する事業、中高生に関する事業		
5 収支の状況	《費用》 ()は前年度決算額		
	・ 指定管理者に支払った費用	66,702千円 (64,887千円)	
	・ その他市が負担した費用	0千円 (0千円)	
	《収入》		
	・ 使用料収入	4,624千円 (4,508千円)	※託児収入
		391千円 (501千円)	※ホール収入
	・ その他収入	374千円 (308千円)	
6 利用者の声	《実施状況》 ・意見箱の設置 ・イベント参加者に対してアンケートを実施		

二 管理運営に係る評価（モニタリングシートの結果によって評価）

評価分野	所見	評価
I 総則	・全職員を対象にした研修を毎年実施しており、仕様書に示す関係法令及び条例等を遵守した施設運営につなげている。 ・プレパパママ、父親向けのイベントを積極的に開催し、幅広い対象者に子育てに関する支援を行ったほか、近隣大学から実習生を受け入れ、これからの支援者になり得る世代に対しても学びの機会を提供するなど、総合的な支援を行っている。 ・イベント申込において先着順で受付を行っているが、キャンセル待ちなどを活用し、より多くの方に参加してもらえるように公平・公正な対応を行っている。	21/21
II 施設の運営管理体制	・経理担当、館長による日々の管理のほか、毎月末には会計士によるチェックを行うことで、適切な経理書類の作成、指定管理料の執行を行っている。 ・採用時の新人研修、年1回の全職員研修で、個人情報や情報セキュリティについて取り扱い、職員の意識啓発を行っている。 ・泉図書館との共同防災訓練を年2回行うほか、防災イベントを実施し、利用者参加型の避難訓練を行っている。訓練には警察や防災士を招き、専門的な助言を受け、災害発生時の対応体制を確立している。	31/31
III 施設・設備の維持管理	・チェックリストを用いた施設内の安全点検を1日3回実施し、利用者の安全性を確保している。 ・不審者対応について、ロールプレイ研修を行い、対応体制を整えている。 ・設備の不具合が生じた際は、ビル管理会社や本市に対する報告体制が確立されている。	19/19
IV サービスの質の向上	・パンフレットや案内掲示の活用のほか、実際の利用者が案内人となる施設紹介イベントを実施することで、利用者の目線に立った情報を提供し、初めての来館者でも利用しやすい環境を整えている。 ・イベントごとにチラシを作成し区役所家庭健康課に配架したほか、子育て支援活動団体に関するチラシは市民センター、中高生に関するチラシは近隣の中学・高校など、内容に応じて配架場所を選定し、利用促進につなげている。 ・アンケート等から抽出した意見をもとに、改善策を講じている。	28/28
V 施設固有の基準	・一時預かり事業において、利用に対する抵抗が少しでも軽くなるよう、託児室の利用がない時間帯には、見学や説明会を行っている。 ・市内の子育て支援関係者交流事業の事務局を担っていること、子育て支援団体の活動支援を行っていることをいかし、関係者に対する積極的な広報や合同イベントを実施するなど、日頃から連携を行っている。 ・ホールを活用し、クラシックコンサートやこども映画館など多くの方に参加いただけるイベントを実施することができている。	9/9

三 評価総括

《指定管理者（一般社団法人 マザー・ウイング）による自己評価》
開館15年目となり、親子が安心して過ごせる場として定着し、特に休日は父親や家族連れのリピーターが増え、日常の居場所として利用されている。 利用者同士のQ&A情報交換ボードでは、子育ての困りごとなどの紙面でのやりとりが活発に行われており、悩みの共感や交流につなげることができている。 行政や助産師などと顔の見える関係を構築できたことで、産前産後の家庭に必要な子育て情報やサポートが届けられた。家庭訪問型子育て支援ホームスタートの仕組みを活かし、頼る人がいない、外出が困難な家庭に出向き、親の育児負担の軽減とエンパワメントを強められる支援ができた。 託児においては、安心安全な預かりを大切に、日直を設け、スタッフ間の申し送りや環境設定を共有し、事故予防に努めた。ヒヤリハットや事故が発生した際は、状況の振り返りと予防対策をスタッフ間で確認、再発防止を図った。 子育て支援者の活動支援においては、ロコミでのサポーターズバンク、団体登録希望者が増え、多方面で支援者から相談や登録の問い合わせを多くいただいた。保育施設などのマッチング希望も多く、活動支援事業が地域で周知されてきている。 中高生事業では、勉強目的の利用で来館することも多く、ひとりでも過ごせる場として認知され、異年齢間での交流ができた。家庭環境や学校、友だちとの悩みを抱えた子どもたちも多く、必要に応じ学校や家庭へ連絡し、警察や児相、こども若者相談支援センターと連携しながら対応することができた。 ホール運営や施設全体として経年劣化による修理、故障が発生してきている。利用者に快適な環境を提供できるよう、日々の環境整備で確認しながら、安全な運営を実施していく。

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
ひろば事業では、年間を通じて多種多様なイベントを実施し、子育てを総合的に支援する運営を行っている。泉図書館との併設であることを生かし、同図書館による絵本読み聞かせイベント、同図書館から絵本パックを借り入れた絵本ボランティアによる季節イベントを実施。どちらも人気のイベントとなっている。利用者からの子育てに関する相談も多く寄せられる中、対面以外でも電話やオンラインで受付を行い、必要に応じて子育て支援専門相談員NoKoCoにつないだ。 一時預かり事業では、子どもを預けることに対する不安感が軽くなるよう、リフレッシュ目的や短時間でも利用できる旨を記載した専用チラシを作成し、近隣の支援センターや幼稚園に配布したほか、託児室の利用がない時間帯には、その場の利用者に見学を促すなど、積極的な広報を行っている。 子育て支援活動団体に関する事業では、団体からの相談に随時対応し、立ち上げ、継続、活動促進などの段階に応じた情報提供・助言を行っている。 中高生に関する事業では、中高生の主体的な利用を促すため、委員を募り、月1回のミーティングを実施している。異世代との交流の促進や、進路に対する考えを深めるために、大学生スタッフによる企画運営や情報ボードの更新などを行っている。	S

四 その他特記事項（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

◎ 評価担当課(施設所管課):こども若者局こども家庭部子育て応援都市推進課